＜東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞＞

ふるさと納税に思う

南相馬市立原町第一中学校

３年　橋本　奈瑠美

４月になると、我が家には群馬県片品村から、旬の野菜が入ったふるさと小包便が届きます。それは、母が片品村にふるさと納税をするようになったからです。

東日本大震災の後、私達家族はそれまで縁もゆかりもなかった片品村に避難しました。不安の中でバスから降り立った私達を、村長さんや村のボランティアの人達が本当に温かく迎え入れてくれました。私が母と離れて片品村にお世話になった期間は４カ月程ですが、母は、あの時受け入れてくれたのが片品村で本当によかったと心から思ったそうです。だから、家族そろって福島に戻ってからも、片品村のことを思い出し、「片品村は第２のふるさとだね。」と言っています。

そんな時母が片品村のホームページを見ていて、目に留まったのがふるさと納税の紹介でした。こんな形のお礼の仕方もあるのかと思い、それ以来、母は、私達が片品村に行った３月１７日を記念日として納税することに決めたそうです。「金額はそんなに多くはできないけれど、大事なのは気持ちだよね。」と言って毎年の納税を少し楽しみにもしているようです。その納税のお返しの品が４月に届けられるので、懐かしくあの頃のことを思い出しながら、ふるさとの味をいただくのです。

ふるさと納税は、税制を通してふるさとに貢献するしくみを作るという理念のもと導入され、三つの大きな意義があります。一つは納税先を選択することでその使われ方を考えるきっかけとなる、二つは生まれ故郷、お世話になった地域、応援したい地域の力になれる、三つは取り組みをアピールすることで自治体間の競争が進む、ということです。

私はこのことを知って、納税という形を通して片品村と私達がつながっているんだと、

改めて強く感じることができました。

返礼品の加熱ぶりが話題になったのを聞いたことがありますが、その土地の風土や住んでいる人の人柄やくらし、それらを何も知らないで返礼品だけのつながりしかないのは、やはり何だか寂しい気がします。その土地と縁で結ばれ、心からその地域への愛着をもって納税する人が増えれば、その納税が何倍も価値のあるものに感じられますし、納税者が返礼品をいただくことで、その土地の空気を感じることができるなら、お互いにとってこんな素晴らしい制度はないと思います。

私の住む南相馬市にも、この制度を通してたくさんの方々が納税をしてくださっています。その税金は、自然環境を整理したり、学校教育の充実を図ったり等、直接私たちの生活に役立っています。全国のたくさんの方々が南相馬市をこのような形で応援してくれるのは、とても嬉しいことだと感じます。私が大人になって納税する立場になった時には、今回学んだことを思い出して、税の行方にも目を向けながら、きちんと納税して地域に貢献していきたいと思っています。